

La Strada 詞・曲 よしだよこ

旅の途中で降り立った
南の街のお祭り
私たちは はぐれて
はぐれて しまいました
その街に着くまでは
二人の旅がお祭りで
誰にもわからぬ 言葉とか
誰にも通じぬ 唄ばかり
笑って 唄って 笑って 唄って
歩いていました
ところがあなたはその街の
お囃子の笛太鼓
すっかり嬉しくなったので
芸人達の踊る輪に
夜と一緒に溶けていけばいいと思ったのです

ところが私はその街の
お囃子の練り歩き
なんだか悲しくなったので
芸人達のお化粧が
夕立に流れていけばいいと思ったのです

焦げた匂いの通りには
朝の小鳥が騒ぎ出し
あなたの行方たずねても
あなたの行方たずねても
芸人達は旅支度
来年のきっと今頃に
ここにおいでと言うばかり
ここにおいでと言うばかり
あれから五回の夏が過ぎ
あれから二回も恋もして
それでも今は私だけ
一人で歩いているのです
今年も南のお祭りで
あなたの噂も聞いたけど
今では私の毎日が新しいお祭りで
北へと向かう旅支度
笑って 唄って 笑って 唄って
笑って 唄って 笑って 唄って
旅の途中で降り立った
南の街のお祭り
私たちは はぐれて
はぐれて しまいました

トンネルの歌 詞・曲 朝比奈逸人

こんな長いトンネルってあるだろうか
もう前も後ろにもいかないよ
最後の汽車から降ろされて
もうあの娘にも会えないな
オイラもそうだよほんととはさ
誰でも家に帰りたいがって
都会は花盛りですって 便りを出した
そんなのウンだけどな

むかしブラットホームの上 灰色の
煙の天使が浮かんでた
でも今になって思うんだ あいつら流
されてきたんだってね

朝は明日の後ろ姿
夜は夜で思い出を纏う
ねえトンネルってため息なのかい
ねえトンネルってため息なんだろう
空も地面もなにもなくて
ながいながいトンネルのなか
呼び合う声だけがきこえるよ 誰も
姿はもってないから

こんな長いトンネルってあるだろうか
もう前も後ろにもいかないよ(注・原
曲では もう前も後ろもなくなった)
最後の汽車から降ろされて
もうあの娘にも会えないな
最後の汽車から降ろされて
もうあの娘にも会えないな

Donut Man

詞 Irvin Benno / 曲 Marc Benno
日本語詞 よしだよこ・高田渡

橋のたもとに一軒のドーナツ屋
傍には干上がった線路が
おやじはいつも奥でいそいそ
正直だけが取柄さ
たいした儲けもないのに
ポロポロ上着にポロ靴
おやじはいつもいそいそ
彼はドーナツマン失うものとして
ひとつもないから毎日がしあわせさ
しがないドーナツマン
けれども誰もがおやじに会えれば
毎日がしあわせさ

50年と一日 身を粉にして働いた
それは神様もご承知さ
たった一つのドーナツだって
嫌な顔もしないで
薄茶の袋と愛で包んでくれた
彼はドーナツマン失うものとして
ひとつもないから毎日がしあわせさ
しがないドーナツマン
けれども誰もがおやじに会えれば
毎日がしあわせさ
子供たちは独り立ち
店は人手に渡り
おやじの噂だけが町をさまよってた
彼はドーナツマン失うものとして
ひとつもないから毎日がしあわせさ
しがないドーナツマン
けれども誰もがおやじに会えれば
毎日がしあわせさ
おやじの噂だけが町をさまよってた
彼が残したものは
ドーナツの穴だけ!

Sally Ann

詞 Jeff Claus / 曲 Jeff Claus, Judy Hyman
日本語詞 よしだよこ

美しきひと 痛みを抱く

Amsterdam, Jakarta
恋を知らない
あの娘が欲しい この娘が欲しい 欲しい
恋しみの人 翡翠の腕輪
in China, in japan
悦び知らない
あの娘が欲しい この娘が欲しい 欲しい
寄る辺なき人 夢に棲む
in Argentina
それしか知らない
あの娘が欲しい この娘が欲しい 欲しい
あやうき人 影を纏う
Palestine, 普天間
夜明けを知らない
あの娘が欲しい この娘が欲しい
You go home with Sally Ann
You go home with Sally Ann
You go home with Sally Ann
You go home with Sally Ann, You go home!

A Case of You

詞・曲 Joni Mitchell
日本語詞 よしだよこ

北極星みたいにならなくて
変わらないよとあなたは言った
だけど どこで光っているっていうの?
私ならこの店にいるわ
安っぽい漫画のコースターの裏
青白いテレビの光たよりに
私は地図を描く 故郷の
そこにあなたの顔をなぞる

体に溶け込むワインのように
あなたは苦く そして甘い
飲み干してみせる
ちゃんと立ってみせるわ 自分の足で
怖がりの絵描きみたいに絵の具箱に隠れてるの
でも怖さを知らない人たちのことがもっと苦手たわ
ああ 二人の魂触れ合ったのは確かだわ
ほら こうして語るあいだにもあなたが零れ出す
体に溶け込むワインのようにあなたは
苦く そして甘い
飲み干してみせる
ちゃんと立ってみせるわ 自分の足で
あなたの癖も怖さも知り尽くす女の人に言われた
傷つく覚悟あればあなたのもとへ行けと
ああ 体に溶け込むワインのように
あなたは苦く苦くそして甘い
飲み干してみせる
立ってみせるわ 自分の足で

She said NO! 詞・曲 よしだよこ

私がこの世に生まれ まだほんの赤ん坊の頃
遠くアメリカアラバマ州モントゴメリーという町
その出来事はその出来事は予期せぬ
かたちで歴史を変えた
その出来事は その出来事は
一人の控えめな女性の勇気ではじまった

1955年12月1日 冷たい雨降る夜
仕事帰りの人々を乗せる一台のバス
白い肌は前のドア 白い肌は前のドア
黒い肌は黒い肌は同じコインを払って後ろのドア
その夜も彼女は慎ましく座っていたのです
正しく表示された後ろの席に座っていたのです
彼女は疲れ果てていました でも
貧しさや辛い仕事にはではなく
間違いを受け入れることに
間違いを受け入れることに
そんな人々の心に疲れ果てていたのです

混みあうバス赤ら顔の運転手が怒鳴り始める
黒い肌の兄妹たちは席を譲らねばならない
あきらめの溜息 立ち上がる黒い影
彼女だけが彼女だけが
一人座りつづけていたのです
沈黙の中ポリスもやってきて
しかし彼女は恐れてはいなかった
その名はローザ・パークス!

彼女は逮捕されたけど、その数日後には
町中のバスから黒い肌の兄妹たちが消えた
381日間 めかるむ黒土の道
歩いて仕事に向う Brothers&Sisters
彼女の蒔いた勇気の種は
雑草の根っことなり綿畑を越えた
若きDr.キングもDr.キングも
驚いたカラッポのバス!

あの冬の夜の出来事を知らなかった私も
あの時のあなたの歳をはるかに越えました
あなた亡きあとあなた亡きあと
報復の鎖は絡み合い
あなた亡きあとあなた亡きあと
差別は新たな差別を生み
私はといえば今日もギターを抱え
誰でも座れる自由のバスに
乗り込んだところで

Oh Sister ROSA, Dear ROSA貴女に会いたい
Mrs.ROSA PARKS Mrs.ROSA PARKS
貴女ともう少し話をしてもいいですか?

私の国は小さな島国で66年前(注・2013年当時)
「絶対に戦争しない」という
素晴らしい誓いをした国です
でもうつむく人が多い国です
知らん顔して歩く人たちが多い国なんです

そんな時シスターローザ バスの後ろの席で
あなたの勇気に思いを馳せませ
ななてちっぽけな ちっぽけな私
でもあなたの勇気を唄うことは出来ます

We shall overcome We shall overcome
貴女が教えてくれた沈黙することの罪
We shall overcome We shall overcome
貴女が教えてくれた何もしないことの罪
You said NO! You said NO!
貴女が教えてくれた微笑というチカラ
You said No! I say NO!
歴史をつくる微笑みというチカラ
We shall overcome We shall overcome
We shall overcome We shall overcome
JUST NO !

Too Late Love Comes

詞 よしだよしこ
曲 Irish Traditional

ふるさとは戦場という名の国
ワルツ踊るように地雷を踏いで
息つくひまもなく費やした日々
何故いつも失くしたあとに
気づくのでしょ

丘を越えやってくるあなたのまぼろし
見送りのその日に捨てた涙と
私の若さを海に沈めても
遅すぎる遅すぎる
あなたはいない

緑生す石の上虹がかかる
愛のために戦い刻まれた文字
愛のために唄い刻まれた名を
人は何故失くしたあとに
気づくのでしょ

生命の河 (The Water is Wide)

詞 よしだよしこ

どこまで続くの悲しみの流れよ
私の願いは木の葉の舟の上

あなたの心が遠くて見えない
私の躰に香りが残るだけ

甘く咲かせた恋の花散ったよ
私の躰もいつかは消えてゆく

それでも果てない運命の流れよ
私は知りたい生命の行方を
小舟にのって

蜘蛛は銀の玉をかかえる

詩 Emily Dickinson/訳 亀井俊介/
曲 よしだよしこ

蜘蛛は銀の玉をかかえる
目には見えないその手に
そしてひとり軽やかに
軽やかに踊りながら
真珠の糸をくり出す

無から無へと往復する
稼ぎにならぬ商売
私たちの壁かざりを
自分の取りかえる
あつと・ゆ・う・まに

一時間で壮麗に築き上げる
彼の光の大陸を
と・おもうと おかみさんの箒から

おかみさんの 箒から ぶら下がる
自分の国境をわすれて
あつと・ゆ・う・まに

道ばたでおぼえた唄

曲 Turlough O'Carolan
詞 よしだよしこ

くたびれたブーツ脱ぎ捨て
草の上に寝ころび
道ばたでおぼえた唄
くちずさんだら
ララリリと近づいてくる
おんなじそのメロディー
遙か丘のむこう 虹のすきまから

ああ シブシーたちは踊りながらゆくよ
名前も告げずに唄だけが残る

忘れ去られた音色の
この粗末なダルシマー
道ばたで私に呼びかけてくれた
ありがとうダルシマー
この髪なびくまに
旅を続けよう 細い糸をつま弾き

ああ 私も踊りながらゆこう
名前も知られず唄だけが残る

道しるべは闇の中 西も東も
道ばたで別れたあの人に逢いたい
けれど今夜もこの草の上で
静けさと語り朝を待ちましょ

ああ 明日も踊りながらゆこう
名前も告げずに唄だけが残る
ああ 明日も踊りながらゆこう
見知らぬ心に唄だけが残る

だびよんの鳥

詞・曲 高坂一潮

少し悲しげなギターケースを抱え
君は階段を掛け上がって来た
南の風を連れて来た
歌う渡り鳥君!
去年より腕に磨きをかけて
今年もここにやってきた
ボクらは紙芝居を待つ少年さ
君が歌い始めるのを待ってた

きびしく辛い日々も
長く退屈な日々も
幸福の姿は一時サ
歌い終えた時の拍手の為に
どんなに長い旅をつづけたろう

君は歌のプロフェッショナル

テレビに出ている歌手よりも
(注・原曲・テレビに写っている歌手よりも)
ずっとボクの心をうった
ボクの拍手が届いたかしら
少しおどけてアンコールに答え
それからボクらの席を回って飲んだ
ボくらにビールつがれた時 得意気に
幸福そうな顔をしてビール飲みほした

きびしく辛い日々も
長く退屈な日々も
幸福の姿は一時サ
歌い終えた時の拍手の為に
どんなに長い旅をつづけたろう

君は南の便りを伝えてくれた
この町の出来事も南の人に伝えておくれ
一人一人に握手を求められ
一人一人と帰っていく店の中
残った君は静かにギターをしまおう
一握りの金を貰い 階段下りた
深夜の町 満天の星の下
君の星を探して 歩いて消えた

きびしく辛い日々も
長く退屈な日々も
幸福の姿は一時サ
歌い終えた時の拍手の為に
どんなに長い旅をつづけたろう

また来年もよろしく
南の人によろしく
また来年も来年もよろしく

海になってしまえ

原曲 Kristina Olsen
日本語詞 よしだよしこ

この星の上では誰も
そんなに長い時間は過ごせない
子供みたい あなたは笑う
悲しい顔しちゃだめよね
でも滝のような涙 海になってしまえ
滝のような涙 しょっぱい

見つめ合う時間はなんて
短くみじかい短すぎる
強くなりたい強くなりたい
悲しい顔しちゃだめよね
でも滝のような涙 海になってしまえ
滝のような涙 しょっぱい

この星の上でも夜は
知らない星のカケラたちを
届けてくれる 教えてくれる
あなたの星ならいいのに
でも滝のような涙 海になってしまえ
滝のような涙 しょっぱい
この星の上では誰も

夜明けまで

詞・曲 スーマー

遠くでいつも踊っている
笑顔の奥は泣いている
終わりは無いと信じてた
君に唄おう 夜明けまで

季節がそつと入れ替わる
気づかぬ君は遠ざかる
崩れぬ恋と信じてた
君に唄おう 夜明けまで

乾いた布を纏ったら
ゆっくり糸を巻いてみる
薄っぺらい言葉消えてゆく
君に唄おう 夜明けまで

月の庭

曲 Irish Traditional(Down by the Salley
Gardens)
日本語詞 佐々木由紀

古い家の庭に
月の光満ちて
ひそやかに風渡り
眠る花を揺らす

そのままの君でいいと
抱きしめてくれた人よ
幾千の言葉より
あの手のぬくもり

名も知らぬ花の色に
心ときめかせ
さしのべた指先に
夜露が光る

あやまちもあらいも
今はただ懐かしくて
涙の優しさ
教えてくれた人